

平成28年度 学校・家庭・地域連携サポート事業

# 学校支援実践研修会

- 〈目 的〉 学校支援事業や放課後支援事業の先進的な取組の発表及び見学を通して実践を学ぶとともに、事業への理解を深め、実施地区の拡充を図る。
- 〈日 時〉 平成28年10月14日（金） 13:30～16:30
- 〈場 所〉 喜多方プラザ文化センター
- 〈参加者〉 49名

## 講 義

### 【学校支援事業の推進について】

福島県教育庁社会教育課 社会教育主事兼指導主事 土屋好二 氏

#### （１）学校支援地域本部とは

○学校の応援団

○地域コミュニティ再生・復興

#### 背景

○教員の子どもと向き合う時間の確保

○学校・家庭・地域の連携

#### （２）福島県の現状

○県内での取組 22／57市町村（郡山市・いわき市を除く）、46本部、193校・園

- ・学習支援（読み聞かせ、家庭科授業補助〈ミシン〉等）
- ・部活動支援
- ・環境整備（学校敷地内の剪定作業、図書室環境整備等）

○成果と課題

##### 〈成果〉

- ・学校の要望に応じて、多様な学校支援を行っている。
- ・専門的な指導やきめ細かな支援を行っていただき、大変助かっている。
- ・地域ボランティアが自らの資格や特技をいかした学校支援を行うことにより、生涯学習の一助となり、生きがいにもつながっている。

##### 〈課題〉

- ・本事業未実施市町村への拡充のため、各学校や地域への周知を図る。
- ・地域ボランティアの人材確保と養成に努める。

#### （３）国の動向

- 地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組み
- 今後の地域における学校との協働体制の在り方
- 学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制

#### （４）終わりに

○地域の実態に応じた活動を

○ふくしまの子どもたちのために

○そして、自分のために



**(1) 事業開始から支援実施までの経緯**

- コーディネーターになったきっかけ（読み聞かせに興味あり）
- 学校、ボランティアとのつながり（裏磐梯小 PTA 会長として）



**(2) 支援実績 (H27 実績)**

- さくら幼稚園…読み聞かせ、麦まき指導 等
- 裏磐梯幼稚園…読み聞かせ、交通安全指導 等
- 児童クラブ…夏休みわくわく体験、将棋教室、補助ボランティア 等
- さくら小…図書ボランティア、自然体験教室（全学年）、祖父母参観、子ども見守り隊 等
- 裏磐梯小…図書ボランティア、交通教室、自転車教室、自然に親しむ会、スキー教室 等
- 北塩原一中…文化祭・異世代交流活動、特設合唱部、図書ボランティア 等
- 裏磐梯中…技術科、特設合唱部、図書ボランティア 等

**※平成27年度コーディネート件数292回、のべ1,612人をコーディネート**

**(3) ふりかえり（成果と課題）**

**〈成果〉**

- 村の宝（自然・文化・人）の共有、コミュニケーション
- 読み聞かせ、図書ボランティア等の読書活動推進
- さくら小学校見守り隊…10年目に表彰（ニッセイ財団顕彰表彰）
- ボランティアの生きがいにづくりに寄与（保険の加入）

**〈課題〉**

- 学校・住民への PR 不足（H23 スタート当初）
- 依頼が直前で実施できなかった事業
- ボランティアが集まらずに実施できなかった事業
- ボランティアの高齢化

**イメージキャラクター**



**「おうえんぴつくん」**

**「読み聞かせ（裏磐梯小）」**



**「自然体験教室（さくら小）」**





(1) 進め方・枠割分担等の説明

(2) アイスブレイク（トークフォークダンス）

- 今日の昼食はどこで、何を食べたか？
- 最近一番「ピンチ！」と思ったことは？
- あなたの地域の「学校」について知っていることは？



(3) それぞれの地域課題の明確化

- 自分の市町村で「学校支援事業」を実施するとしたら・・・ ⇒ 「課題」をふせんに書く。
- ※現在実施している市町村は、現状を振り返って
- 一人ずつ「課題」について説明する。

(4) 解決策

- 課題を明確にする。（グルーピング）
- 解決策について、ファシリテーターを中心に話し合う。
- グループについての解決策をまとめる。



(5) 課題と解決策の共有とまとめ

〈1班〉・ボランティアの確保やコーディネーターに

適した人材を見つけるのがむずかしい。

※その地区の文化団体の長に働きかけると効果的

⇒ 地域の人材バンクを活用する

- ・学校のニーズを把握するためにアンケートをとり、現状を知ることが第一歩となる。

〈6班〉・現在コーディネーターをやっている人…

「学校が好きだったから引き受けた」

⇒そういう人を見つける。地域には、そういう人がいるはず。

- ・校長先生の話を知ると、学校にはたくさんのニーズがあることが分かった。
- ・学校とコーディネーターの連携がうまくいけばスムーズに進む。
- ・各種団体への声かけや人材バンクを活用して人材の確保をする。



# 参加者の主な感想

## ◎ 講義「学校支援事業の推進について」

- 学校支援地域本部の仕組みや本県の現状について理解することができた。
- 今まで知らなかった学校・家庭・地域の関係をよりよく結ぶ事業であることが分かりました。
- 「支援」から「連携・協働」への移行は難しいかもしれないが、理想的ですね。
- とても意義のある大切な事業だと感じました。

## ◎ 実践発表「北塩原村学校支援地域本部の取組について」

- ボランティアの確保・研修、学校の要望を実現する上での苦労など、コーディネーターとしての役割の大切さがわかりました。
- 学校や地域に積極的に働きかけ、大変素晴らしいと思いました。学校も大変心強いと思います。
- 地域の方々に見守られながら育つ子どもたちのこれからが楽しみです。
- 仕事を持ちながら精力的に取り組んでいるエネルギーに心が動きました。頭が下がります。
- 地域・学校をつなげるために先に進む勇気に拍手です。酒井さんは北塩原の宝です。
- 企画書を学校に持って行くなど素晴らしい活動内容でした。
- 同じコーディネーターとして、できることを尻込みせずしっかりやっていこうと思いました。

## ◎ ワークショップ…情報交換「地域で学校を支援するための課題と方策について」

- 各市町村の実態や現状についての情報交換は大変有効であった。地域と学校がさらに連携を深め、タッグを組んで進めていくことの大切さを再認識することができた。
- 実際に取り組んでいる方々が、情報交換で悩み等を共有できる機会はとても貴重であった。この時間をもっと多くして欲しい。
- 参加した皆さんが今回の研修で何かしら学びたいという意欲が感じられる有意義なワークショップでした。
- 人材発掘や確保が共通した悩みである。また、人材を発掘することで、地域を改めて知る機会になっている点も確認できた。
- 本日、グループの皆さんから聞いたお話を参考に地元で頑張ります。
- 持続性のある学校支援には、地域の意識を高めることが大切だと思う。

たくさんのご参加ありがとうございました！

